

醸造協会



新年明けましておめでとうございます。平成 29 年（西暦 2017 年）のお正月を迎えました。今年も、日本醸造協会は、醸造に関する理解を深め、豊かな食文化の形成に寄与するため、醸造に関するセミナーの実施、きょうかい酵母等の頒布、醸造に関する図書の発行等の業務を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。1 月は睦月（むつき）といい、諸説あるようですが親類知人が往来し仲睦まじくするからとの説が有力ということです。

「人類、皆一年中仲睦まじく」がよろしいですね。

さて、協会の隣にある「旧醸造試験所第一工場」（通称「赤煉瓦酒造工場」といいます。）は、平成 26 年 12 月に国の重要文化財に指定されましたが、平成 28 年 4 月 1 日から日本醸造協会が文化庁から管理団体の指定を受けて管理することとなりました。「赤煉瓦酒造工場」は、明治期の建築界の三大巨頭（他の 2 名は辰野金吾、片山東熊）ともいわれる妻木頼黄（つまき よりなか）の設計によるものです。妻木は、江戸幕府の旗本妻木源三郎（禄高千石）の子として 1859 年に生まれ、父の死亡（コレラによる）により 3 歳で家督を継ぎましたが、明治維新により新たな人生を歩むこととなり、工部大学校（後の東大工学部）入学後、アメリカのコネル大学に編入学、卒業後、東京府、後大蔵省で主に官庁関係の建物を設計した人です。ドイツに留学（ベルリン工科大学校）した経験があるためか、「赤煉瓦酒造工場」はドイツのビール工場を参考に設計したといわれています。

建築学的には、レンガ壁の中の空洞（絶縁壁）、耐火床、各種のアーチ、日銀の地下金庫室にある施釉煉瓦と同じ白色施釉煉瓦使用の旧麴室など建築専門家の方には大変興味あるものと思われます。なお、創設時には屋根は瓦が葺かれていましたが、第二次世界大戦の空襲により破壊され、現在は緑のトタン屋根になっています。他方、醸造に携わる人にとっても、明治 37 年（1904 年）に創設された大蔵省醸造試験所の酒類試験工場として、研修や講習時には研究や勉強をしたところです。研修生や講習生にとって、自らの蔵や工場が醸造の第一の故郷とすれば、「赤煉瓦酒造工場」は、第二の故郷とも言うべきものです。

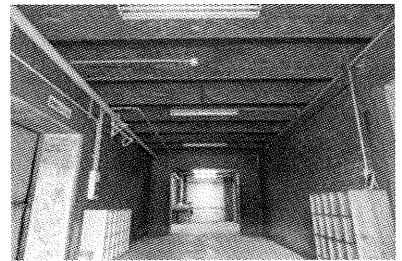
現在、「赤煉瓦酒造工場」は、醸造設備を活用した醸造講習、旧ボイラー室を活用したミニイベントの開催、一般の人々の見学・公開などを行うため、整備を進めています。整備を進める中で、旧麴室では施釉白煉瓦を創設時の状態に戻す整備、見学・公開には古い洗面所の全面改修などが必要であり、このため協会として「赤煉瓦酒造工場整備事業募金」を募ることとしました。本年 1 月 4 日から平成 30 年 3 月末までの期間として、広く一般から募金をお願いすることとしました。協会誌の 2 月号に詳しい募集内容を記しますのでぜひ皆様には募金方お願い申し上げます。



赤煉瓦酒造工場（春）



白色施釉煉瓦（旧麴室）



耐火床